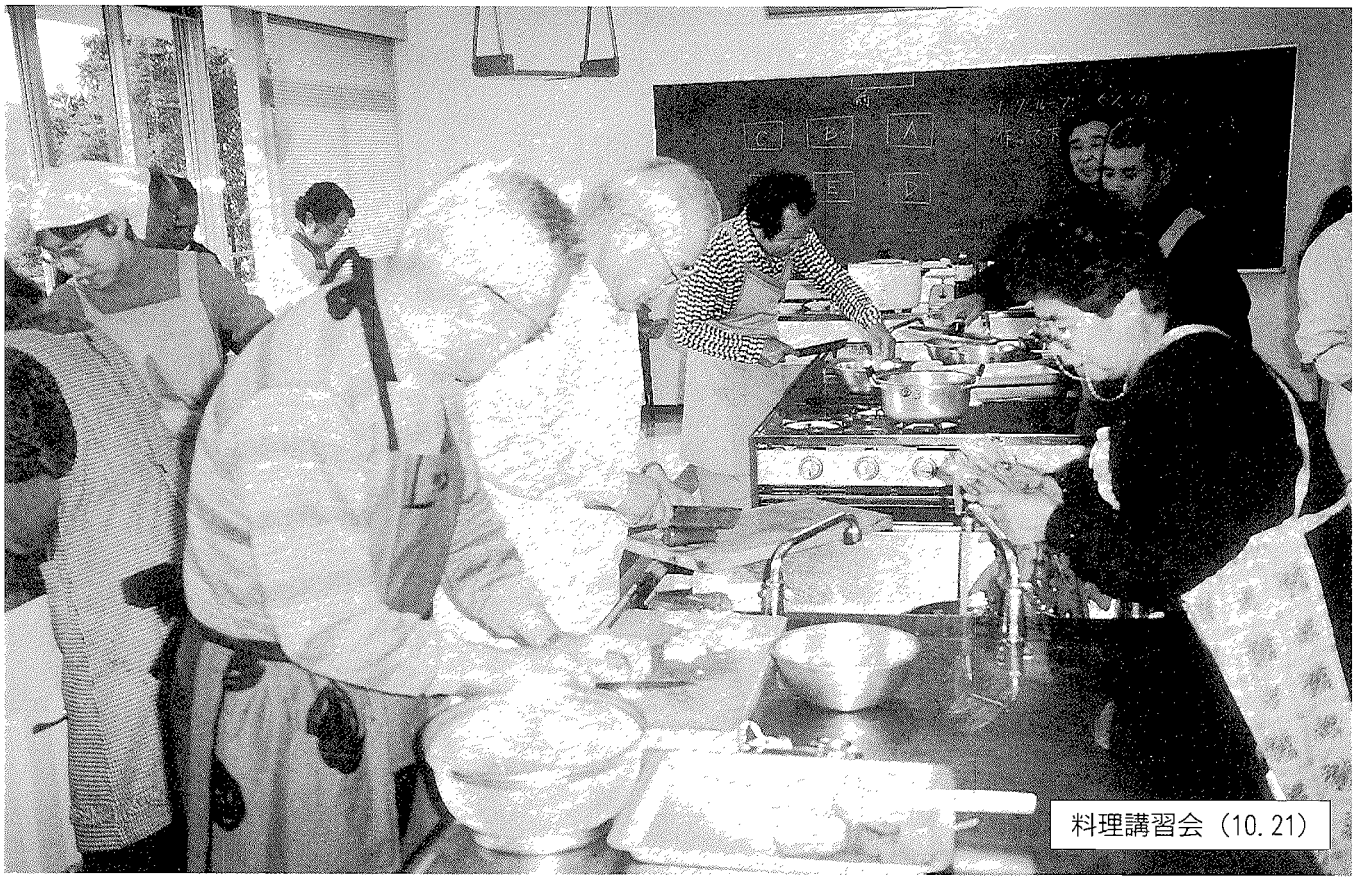
シルバー江田島

第 17 号

平成13年1月1日

<発　行>
㈳江田島町シルバー
人材センター

江田島町中央1－15－15
江田島町シルバーワークプラザ
TEL (0823)42－5211
FAX　　42－5051



料理講習会（10.21）

年頭のあいさつ

理事長　山佐一男

新年あけましておめでとうございます。

いよいよ二十一世紀の門出です。皆様にはお健やかに初春をお迎えのこととお慶び申しあげます。

当シルバーセンターも、皆様方の温かいご支援ご協力によりまして順調に事業運営が図られていることに対し、心より厚くお礼申しあげます。

昨年は、経済情勢のきびしい中で、平成十二年度十月末には会員数二五〇名、契約件数は九一一件（一〇三％）、契約金額は四、七五四万円（一〇四％）と、いずれも前年同期を上回っており、こうした実績をあげることができましたのも皆様方のお蔭と、心からお礼を申しあげます。

事業面で特筆すべきことは、竹炭、竹酢液の製造が本格的にはじまったこと、「障子、ふすま作業」、「畳の表替作業」が定着したこと、一般作業の班長さんによる自主運営も設立以来継続実施されており、更に、江田島町から文化の日に表彰されたこと等があげられます。

今年もまた、きびしい状況は続くものと思われますが、このような状況だからこそシルバーセンター設立の原点に返り、「住民の為に役立つシルバー」、「住民に愛されるシルバー」になるために、みなで考え、みなが力を合せて飛躍の年にしたいと思います。

最後に皆様方のますますのご健勝と一層のご発展を祈念いたしまして新年のごあいさつといたします。

二十一世紀を迎えて

町長　平木重巳

シルバー人材センターの皆さん、明けましておめでとうございます。

いよいよ二十一世紀の幕明けです。新世紀が輝かしい世紀になることを願わずにはおられません。お互い助け合い励まし合って、明るい町づくりを進めて参りましょう。

さて二十世紀はまさに激動の世紀でありました。戦後未曽有の試練を克服し、ゼロからの復興をなしとげた我が国でありますが、新世紀と共に、その前途には、尚数々の課題が横たわっております。

その一つが少子高齢化問題であります。原因は出生率の低下、高学歴化による晩婚傾向、独身傾向や共働き世帯の増加等があげられ、一方では平均寿命が今や世界最高レベルとなっており、人口構造の上から言えば、若い人たちが高齢者層を支えて行くことが難しくなると懸念されています。しかしこの事は六十五才以上の人達がすべて仕事をしていない、つまり若い人の荷物になっている事を前提としての話のように思います。

私は、これからの日本の社会において大切なことは、高齢者の方々が生涯現役の意識をもって、知識・経験を活かし、元気な生産人口として地域に貢献することが求められていると思います。そのことによって心配される少子高齢化の問題にも光が見えてくると思っています。その意味で新世紀は高齢者の時代であり、シルバー人材センターの存在価値は更に高まってくる事になりましょう。まさに皆さんの出番です。

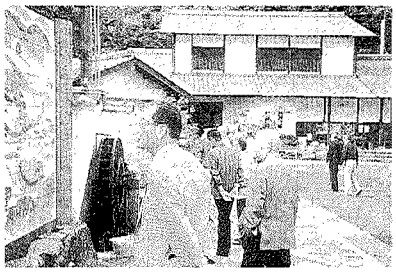
重ねて皆様のご健勝とご多幸を心からお祈りして新年のご挨拶と致します。

北九州
親睦旅行に参加して

恒例の親睦旅行が、今年は嬉野温泉をメインとする周辺の名所観光と決まり、十月五・六日の日程で行われた。集合場所が会員の要望により呉港と宇品港となり、参加者四十四名（内女性八名）で八時三十分出発した。

先ず山陽道広島ICへ。そこから一路九州方面へ向かう。天候は快晴。しばらく快適なドライブに身を任せ、車窓に流れる秋本番の風景や垣間見える瀬戸の島々の眺望を楽しむ。やがて、酒類が配られると車内が急に賑かになり、そこかしこに談笑の花が咲く。十一時四十分、壇の浦PA着。ここで昼食休憩をとり、それぞれ展望台で関門海峡や大橋を背景に記念写真をとったり、約四十分、思い思いの時間を過す。九州自動車道に入り、八女ICで降りて十四時、最初の目的地「水郷の里」柳川へ到着する。

この柳川は、その昔、十三万二千石の柳河領であったが、戦国時代、藩主、立花宗茂が家康に敵対したため領地を没収され、二十年後、奇蹟の再封を許された由緒ある城下町で、往時を偲ぶ歴史資料を感慨深く見学する。町を縦横に結ぶ水路に沿って情緒豊かな柳並木が続く。北原白秋の生家はこの一角にあった。昔酒造業であった生家が、そのまま記念館となっており、詩聖白秋の生いたちと数多くの詩業が展示されている。白秋を育んだ風土、文学に心打たれ感銘し、次に立花家別邸「松涛園」に赴く。ここは地元の人々に「御花」と呼び親しまれている処で、明治建築を代表する文化遺産と、見事な松の名園を観賞し、十七時三十分、待望の嬉野温泉万象閣に到着した。早速、名湯で暫し体を休め、十九時より宴会となる。酒がまわり、宴が盛り上がったところで、カラオケ、踊りの出番となり最高潮。楽しい笑いの中に一日目を終る。



伊万里焼の里

翌朝は八時ホテルを出発し、伊万里焼で有名な秘窯の里、大川内山へ向かう。八時四十分着。ここで一時間自由行動となり、閑静な山里に展ける窯元を見学し、豪華な陳列の逸品に思わず目を見張る。遠き慶長の昔、朝鮮から伝来されたと聞く磁器製作技法に大陸との文化交易を偲ぶ。次に、黒沢明記念館サテライトスタジオを見学し、伊万里市を後にした。

十一時、佐世保市大塔の和泉屋へ。ここで昼食をとり、物産店で買物を済ませ、十二時帰途につく。途中、事務局の中村氏の、参加者の名前を入れたユニークな即興詩の発表や、軽いゲームを楽しみながら、十七時二十分、宇品港へ（また十八時二十分呉港に）無事帰着し、二日間に亘る楽しい親睦旅行を終了した。

（A・I記）

ようこそ
新しい仲間のみなさん

本年6月から11月末日までに加入された方々です。どうぞよろしくお願いします。

丸本末喜（切串）
奥野里枝（切串）
山中ヲチヨ（切串）
牟田郁夫（江南）
森田兵衛（切串）

（敬称略）

南九州の史料館等を訪ねて!!

（ガイド班第四回研修）

ガイド班は、平成十二年八月二十八、二十九日の両日にわたり、佐世保市にある海上自衛隊史料館、平戸市松浦史料博物館及び佐賀県立名護屋城博物館を研修し、大いに見聞を広めました。

ガイド班の八名（山佐㈠、山佐㈨、西野、下野、小松、井川、八木の各氏と新本）は、八月二十八日出発の読売ツアーに便乗し、山陽道、中国九州道及び西九州道を通り、八時間かけて佐世保市に到着。

●海上自衛隊資料館

平成六年旧水交館跡地に新築された史料館は、

一階　企画と佐世保地方隊史料展示

二階　海上自衛隊Q&Aコーナー史料閲覧、文書展示室

三階　艦艇模型の展示

四～六階に海軍の軌跡、佐世保鎮守府、海軍の史料を展示し、七階が映像ホールと展望ロビーとなっていました。

ここは、当初から広報を目的として建築されたもので、一術校の建物や教育参考館とは趣を異にしているものですが、説明者が元隊員で、話の内容もユーモラスで見る人を引きつけていました。

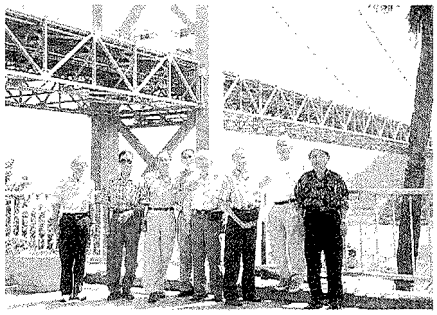
●松浦史料博物館（平戸市鏡川町）

昭和三十年西海国定公園の指定と時を同じくして松浦家三十九代松浦陞（すすむ）氏から土地、建物、資料が寄付されて財団法人博物館として設立されました。鎌倉時代から松浦家に伝承秘蔵された平戸の歴史を物語る史料で、松浦党、海外貿易品（中国、オランダ、イギリス）、キリシタン関係、大名の武具用度品、書画、陶磁器、古文書、明治の平戸偉人の遺影、遺墨類ほか約二五〇点が展示されていました。ここでは、各自が見てまわり別に説明はありませんでした。

●名護屋城博物館（佐賀県鎮西町）

約四〇〇年前、朝鮮半島侵略をもくろんだ豊臣秀吉は、この地に名護屋城を築いて出兵基地とし、文禄、慶長の役を起こしました。この戦争の舞台となった巨城名護屋城と参集した全国の大名の陣屋跡は「名護屋城跡並びに陣跡」として国の特別史跡に指定されています。

名護屋城博物館は、この広大な遺跡の保存整備事業の中核施設として日本列島と朝鮮半島との交流の歴史を調査、研究、展示紹介し、今後の友好、交流の推進拠点となることを目指しているということです。



関門橋（壇之浦ＰＡ）にて

この主旨から室内を「名護屋城以前」、「歴史の中の名護屋城」、「名護屋城以後」、「特別史跡名護屋城跡並びに陣跡」の四コーナーに分けて展示されております。ここでは最初に総括的な説明がありました。

このほか国の特別名勝、日本三大松原の一つ「虹の松原」の中を通り、続いて鏡山からの俯瞰展望は正に圧巻でした。また、この登山道路がおもしろい。暴走族を避けるため路面に波をうたせ、車がその上を走ると大きく上下するようになっていました。

一つ残念なことはツアーに加わったことで我々の時間が持てず、史料館見学の中途で退出せざるを得なかったこともあります。

三史料館を見学して、三者三様の趣があり、それぞれ多少の差こそあれ有意義な研修を終了しました。

最後になりましたが、このたびの研修に際しシルバー人材センターから助成のあったことを感謝して筆をおきます。

（Ｓ・Ｓ記）

清掃講習会

床はワックスをとり トイレは光り物から

十二月五・六日は清掃の講習会。五日はビルの清掃、講師は中本さん。

部屋は箱、いちばん汚れているのは床。まず床の表面のワックスを洗剤を使ってとる。洗剤を多目に撒布し、ポリッシャーをかけ、拭きとる。乾いたらワックスを三回にわけて塗る。ワックスの剥離剤はアルカリ性なので、滑って転ばないように気をつけること。と話され、事務室で実習。床がすごくきれいになりました。

六日はハウスクリーニング。講師は糸曽さん。引っ越しの時に頼まれることが多い。

きれいにする所はトイレ、台所、風呂とガラス。トイレで一番汚れているのは便器。でも、まず光っている物（メッキがされている）を重視する。そこがいちばん目につくから。次に便器。きれいにしたと思っても便器に尿石がついていて臭ったり、水垢がついて黒いシミがついていることがある。そこで薬液を使って尿石や水垢のシミを取り、床を拭く。

その後、天井のスス払い、ガラス、柱、刷子、部屋の床とすればよい。

受講者は両日で四十人余。

なお、詳しい手順や薬品類を書いたものが事務局にあります。参考に。

落成式までに間に合わせなきゃあ

十月二十四日、町役場の剪定場所を訪ねました。

私が訪ねた時には、三人の会員が五メートルほどもある松の木に登って剪定の最中。

「保健センターの落成式に間に合うように植木の剪定をしています」

とのこと。パチン、パチンというはさみの音が快く響きます。みるみるうちに葉の密集していた枝がさっぱりします。

「仕事をするにはいい季節になった。仕事がはかどる」

と枝の上からの声。落成式に間にあわせるために、今月いっぱいで仕上げるとのこと。

「期日が限られているので休みなしにやっているよ」

とは休憩中の冗談。見れば五葉の松の下枝が三本ほど枯れています。

「夏の盛りに移したので枯れたのか。移植するには時期があるのだが…」

そこから、植物は実に季節をよく知っているとの話になり、

「家の庭の彼岸花が、九月の二十日ごろになると、きちんと花を咲かせる。日の出、日の入りで季節を知るのか。えらいものだと感心しました」

ひと休みののち、また仕事にかかりました。

支える仲間

スプレーで入念に消毒

介護用ベッドの取り替え作業があるというので、中央公民館に行きました。

午後二時過ぎ、解体したベッドが帰ってきました。早速、一階のロビーで掃除、消毒の作業が始まります。

ベッドの台をまずホーキで掃きます。家の中にあっても結構汚れているとみえ、ほこりがたちます。

そのあと空拭き、そして水拭き。

「足が結構汚れている」

と、タワシでこすり、その後水拭き。

「傷がついている所はなかなかきれいにならない」

と言いながら水拭きをします。表が終わると裏、みる間にきれいになりました。

「以前は社協の職員がホルマリンで消毒していましたが、人手が足りないのでシルバーにお願いしました。無料で使えればという声もあり、いま、いただいているのはシルバーさんに払う日当だけです」

社協の三浦さんは続けます。

「古賀さんがよくわかっているので、安心しておまかせしています」

拭き終えたあと、霧吹きでていねいに消毒。

「体の弱っている人にはMRSA（つねにまわりにある細菌）がこたえます。だから消毒は欠かせないのです」

消毒が終わるとトラックに積みこみます。床の汚れを掃除機でとり、ホーキ、雑布などを倉庫にしまって切串の依頼者のもとへと出発しました。

蜂ノックが出来て楽になった

津久茂で蜂の巣とりの仕事があるというので平崎さん達と一緒に行きました。ところが留守。そこで、しばらく蜂とりの話を聞きました。

「昨日は江南でスズメ蜂の巣をとりました。家の前の一メートル五十センチくらいの高さのサツキの中に巣がありました、スズメ蜂は荒いので、前から行ったら蜂が向かってきます。用心して巣に近づき、巣の入口に「蜂ノック」を入れ、帰ってくる蜂にも撒き、蜂の動きを見はからって巣をとりました」

以前はスプラサイドを撒布していたが、蜂ノックが出来て楽になったと続けます。

「天井裏に巣があるのがいちばん困ります。狭いうえに夏はカワラが焼けて暑く、そのうえ家の人が気づくのが遅れるので巣が大きくなっているので」

「土の中に巣があるのは大変でした。蜂ノックが効かなくて二、三回刺されました。次の日、バーナーで蜂を焼き殺してとりました。刺された時には毒を吸い出す吸盤みたいなものを貼ると白い液が流れ出し、翌日は何ともありませんでした」

「昨年は毎日のように召集がかかりましたが、今年はそんなにありませんでした」

家の人が帰るのをしばらく待っていましたが、

「今日はだめだ、明日にしよう」

と、この日は作業なしに帰りました。

次の日、私は行けませんでしたが、話によると、巣は天井裏にあり、便所の上から出入りしていたとのこと。また、昔のワラ屋根の家でしたので天井裏が広く、仕事が楽だったとのことでした。

次はハチ取りの注意を山佐さんが書いてくれたものです。

「夏場は、スズメ蜂や足長蜂が攻撃的になり、毎年全国で二十人から三十人の死者が出ています。

肌を露出させず、白っぽい服装がよい。虫よけスプレーは蜂には効果がありません。カチカチと音をたてて飛びまわっていたら巣に近づくなという警告なので逃げてください。

万一刺された時は応急措置として、

① 抗ヒスタミン剤を含むステロイド軟こうを塗る（アンモニア水は塗らないこと）

② 冷水や濡れタオルで冷やすを行って、一刻も早く病院に行く。

ハチ毒の大部分はアレルギー症状が原因です。毒にやられると、喉のむくみ、息苦しさ、全身ジンマシン、血圧低下、悪寒、どうきなどの症状が現われます」

われら町を

車が入らない所の荷物運びは大変

十月二十六日、江南の前河内さん宅の引越しを取材しました。

作業は、丘の中腹の家から県道をはさんで建てられた新築の家への家具の運搬です。県道から前河内さんの旧家までの道は狭く、そのうえ車が入るのは家から五十メートルくらい離れた所まで。さらに、旧家の門を出るとすぐに五メートルくらいの石段、そこを下りて車の所まで荷を運ばねばなりません。

作業をする人は四人。トラックの荷台にシートを敷いて家に向かいます。まず、フトン類から運び出します。

「ようけ荷物があるわい」

と言いながら、フトン袋を一つずつかついで運びます。フトン袋、衣類ケースでトラックがいっぱいになります。

新居に着くと前河内さんの指示で二階に運びます。階段が狭く、フトン袋、衣類ケースは手渡しで。

旧宅にもどってまずひと休み。

「ええ家じゃったのう。柱も太くて、がっしりしている」

と新居の批評。

二度目は冷蔵庫やベッドの搬出。ベッドは分解して運び出します。木枠は二人で運びます。石段を下りる時は特に気をつけます。

「冷蔵庫は横には出来んのう」

「門が狭いので、戸棚を出す時はよっぽど気をつけんと…」

作業の手順を話しながら搬出する手順はさすがでした。

「気をつけてくださいね」

と言葉をかけ、現場を去りました。

掃除の手順から決めなくては…

新しく出来た町の保健センターの清掃が始まるというので出かけました。

仕事は朝の八時から十二時まで。初日なので、まず福祉保健課の職員と用具の確認。掃除道具を掛けるフック、マイペット用のスプレー、トイレ用のモップとしぼり機などがないので職員に用意してくれと依頼。

作業の手順はまず庁舎内。事務所のある一階のフロアー、そしてトイレ。それが終わると一階の奥の床張りの集団指導室、それから二階。さらに外まわり。二人一組での作業ですが、かなりの仕事量と思いました。

「はじめてのことなので、役場の人に聞きながら始めました。そのうち慣れるでしょうが」

話しながら掃き掃除の手は休めません。フロアーの掃除が終わると一人はトイレ、一人は集団指導室。

「ここは床張りなので水拭きはだめ。すべり止めのダスキンがあれば…」

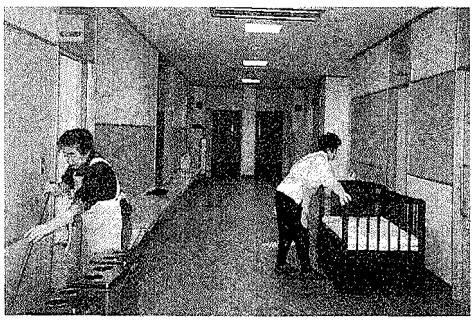
と言いながら掃除機をかけ、その後乾いたモップで床拭き。

帰りぎわに、

「モップのしぼり機、すべり止めのダスキンを用意してほしいのです」

と言われ、役場に要望することを約して辞去しました。

要望事項は事務局長さんがすぐ役場の担当者に連絡しました。



職域座談会（5）

基本に則って仕事をすること

―剪定班―

十一月二十四日午後、剪定班の皆さんに集まっていただき、仕事上の喜びや苦労話を話してもらいました。

司会は広報委員の森さん、記録は下谷です。

みんながお互いに研鑽していくことが大切

司会　ご苦労さまです。今日は職域座談会の五回目、剪定班の皆さんから剪定作業の内容や苦労などを話していただきたい。剪定班のことを会員や町民に理解してもらうことになりますので。まず自己紹介を。

高橋　今年九月から剪定班に加わったので、まだ見習い中です。シルバーに入会したのは、定年後も体を動かしていたいと思ったからです。

司会　みんなが助け合いながら仲良く技術を磨く所がシルバーです。

土手　私は平成二年の設立当初から剪定班に属していました。いま、ふり返ってみますと、これでよかったのかなと思うことが多い。剪定した日はよいと思うが、後で見ると、これは…と思うことが多い。一生勉強だと思っています。

司会　仲間に技術を教えてあげてほしいと思うのですが。

土手　みんながお互いに研鑽していくことが大切だと思います。さらに本職の人の仕事を見ると技術も身につきます。また、注文主もいろいろで、涼しくなればよいという人もいれば、そうでない人もいます。仕事に不満をもらす人もいます。でも、これは剪定だけに限りませんが。

司会　職人ではないので仕方のない面がありますね。受注の時、事務局の方がその点をよく話し、理解してもらうようにしたらよいと思います。

瀬戸垣内　もともと盆栽が好きでしたので、剪定班に入れば技術が習えると思って入りました。わからないことが多いのですが、土手さんにいろいろ教えてもらっています。

蜂には十分気をつけないと

瀬戸垣内　剪定をしている時、蜂が出てくると困りますね。

土手　蜂の危い時期があります。一番危いのが七月から九月ですね。蜂の巣は松茸のような形をしていて、小さいのはそうでもないが、大きいのは危い。

峯崎　サツ木の植込みの中にスズメ蜂の巣がありました。

山口　一匹は殺したが、そのあと、ワーと蜂が飛び出してきたので慌てて逃げました。

司会　草刈りの最中、スズメ蜂が出て来て、刺されて亡くなった方がありました。その後、防蜂剤を持って行くようになりましたが。

土手　亡くなられた人の場合、土の中に巣があったのではないかと思います。

事務局長　蜂ノック（駆除剤）がよく効くのでは。

峯崎　ふと気がついて蜂を狙ってやるのですが、たくさんだと…

司会　蜂の巣が大きい時は作業を中止して、まず蜂を駆除すべきだと思いますが。

土手　コップの形をした長い巣についている蜂は大きい。

入会して知り合いが増えました

峯崎　剪定を始めて二年、何もわからない所から始めました。剪定の仕事のない時は他の仕事をしています。入会して知り合いが増えたことがいいですね。それに、為になることを教えてもらえることも。

司会　人間関係をつくることが出来、いろんな人と知り合いになれたことがよかったということですね。

峯崎　体のためにもいいし。

山口　入って間がないのですが、先生が沢山いて、いろいろ教えてもらえるのがいい。

脚立の脚の角度は四十五度がいちばん安全

土手　用具について考えてみましょう。第一は脚立。足もとがコンクリートの場合はすべるので十分気をつけることです。綱をかけていても切れることがあります。脚立の脚の角度は四十五度がいちばん安全、開いても六十度までです。四十五度までだと身体の重みが真下にかかるが、六十度をこえると脚にかかり、脚が開いて危険です。

脚立の「天」には上がらないこと

峯崎　脚立の天（一番上の平な所）には上がらないこと。一度失敗しました。天に上がったら力が両脚に働くから脚が開き、危い。

土手　天に上がる時は、脚を木に結びつけてやること。自分の身体の重みがどれにかかるか、考えてやることでしょう。

峯崎　天には出来るだけ上がらない方がよい。

司会　作業する人が十分に注意しなければならないことですね。

土手　柄の長いハサミは雑木の枝伐りに都合がよいので、あれはいいと思うが。

瀬戸垣内　ガケから出ている枝などを

伐る時はあった方がいい。また、脚立の片方をガケなどにかけると、留金がフックから外れる。

土手　開きすぎると留金の鎖が足りない。そこで、私はいつも細いロープを用意している。

事務局長　本来そこまで開いて使用するようになっていないので、あまり無理をしないでほしい。

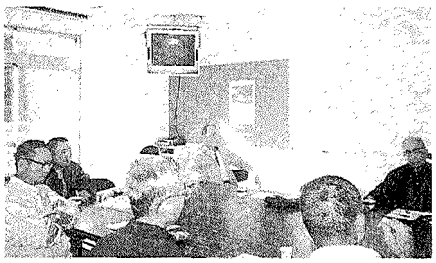
剪定班の人数は増やせないのか

理事長　仕事が増えているのでは。年中剪定の仕事がある。

事務局長　年内・正月までにやってほしいという注文も多い。年内はほぼ無理と思われるので、十二月に入っての注文には、そう伝えてはいますが。

峯崎　人数を増やすことは出来ないのですか。

事務局長　剪定班の人が初めての人と、一緒に仕事をしながら、教えてあげ、新しい会員の技術を高めるという方法があるのではと考えています。また、講習会も必要なので、三月に実施してはと考えています。今、剪定班に属している人の多くは、最初から剪定を考えて入ってこられたのではないと思います。講習に参加したり、仲間の仕事を見て、やってみようと剪定班に入ったのではないかと思います。剪定班の中には仕事の重複している人もいますから。



司会　班の人が〝素人でも習えば出来るようになるよ〟と会員に話して広げるとよいのでは。

事務局長　でも、ある程度器用さが必要でしょう。そこらも考えないと。

司会　講習会をやってもなかなか身につかない。新しく入った人は助手、その人の力量にみあった仕事を考えてあげればいいのでは

事務局長　新会員の人と経験者の人が一緒になって仕事をしたらいいと思いますが

瀬戸垣内　新しい人に加わってもらわねば。そうでないと、シルバーの仕事として長続きしないと思います。

事務局長　住民の声として〝安くてきれいに〟と、シルバーへの期待が高まっていると思います。

理事長　剪定の技術の程度を町の人は見ていますからね。

下野　切串には専門の業者が二人いるが、江田島にはあまりいない。そこで、草刈りの人でも剪定をやってみようという積極的な人に働きかけることが大事だと思います。

司会　最初は雑木をやってもらい、それから松などに移るとか。また、技術を持った人と一緒に始めて、個人宅に移る方法もありますね。

基本に則ってやること

土手　木が数本ある時は、全体を見て仕事をすることが肝腎だと思います。一本の時は、その木だけを見ればよいが。

峯崎　松だけでなく、いろんな木があるので全体のバランスを考えねばなりません。

司会　発注者の希望もあるでしょうし。

土手　剪定師は庭師ですよ。

瀬戸垣内　専門の人の講習を受けるのはいいですね。

土手　基本に則って仕事をすることです。全体が三角形になるように作っていくこと。山の木を見ると大体そうなっています。実習の仕方に、山から木の枝を伐ってきて、各自がそれを剪定し、専門家に見てもらって助言してもらうといいと思います。

司会　基本に則ってやると同時に、発注者の好みもあります。それを織り混ぜてやることですね。

土手　発注者の好みは庭を見れば分かります。

司会　事務局に対する要望、また、お互いに気をつけることなどが出、活発に意見の交換が出来、本当によかったと思っています。怪我をしないで、仲良く、楽しくやっていきましょう。今日は本当にありがとうございました。

文化祭

―一年間の集積―

去る平成十二年十一月三日㈮、文化の日に切串小学校、同中学校を会場として開催されました。今年は前日の準備の段階から参加した。

文化祭には雨は降らないというジンクス通り晴天に恵まれました。遠く広島市の山が手に取る様に見えて、文化祭一日の盛会を予告する様な天候の下、恒例の関係者の挨拶から始まり、五十回目の祭に関係者のそれも興奮気味に開会された。

二十六あるコーナーの内、当シルバー人材センターの展示コーナー、親子創作コーナーに会員は勿論の事、一般の来場者の皆様が常設コーナーにいちはやく足を運び、展示品の竹細工、組木、恵比寿大黒天、来年のエト、折紙のイヌ、白鳥を喰い入る様に見て、気にいった物を買い求めてくださる。スズメ蜂の巣、エトの掛軸、素人はだしの五百トンの木造船（原寸の二十分の一）、今年初めから造り始めた竹炭、竹酢液も人気の品だ。最近ブームになっている面も幸いしている。

（8頁に続く）

フェスティバル江田島に参加して

平成十二年十月十五日、江田島青年の家を主会場に開催された。

メインステージでは、この種の催物の定番である主催者、来賓者、後援者の挨拶は欠かせない。これをリード司会するのは、広島市にあるホームTVの大松アナである。

最初は人の出足は鈍い。我々の親子体験コーナーは本館二階、隣は江田島郵便局葉書作りコーナー、その前の部屋に、この会を陰で支える裏方、江田島高校生の控室である。

昨年から参加している当シルバー人材センターは、家庭、学校で学ぶことの無くなったナイフの使い方を体験させている。竹を削ってトンボの羽、心棒を作らせる。最初危なかしくギコチないがトンボ一匹が出来るころには、怪我もなく、やりとげてしまう。親の方がギコチない人もいる。自分で作ったトンボが飛ぶので大喜びする。中に反対に回転させて自分の方に向ってくるのに驚く子もいる。教えてやるとすぐに部屋の天井めがけて飛ばすようになる。「案ずるより生むが易し」。子どもは機会を与えればいくらでも順応する。用意した体験台六台はコンスタントに使用される。初めての体験を親子でよろこび満足して部屋を出て行くのを見ると、ささやかではあるが子ども達のためになった事をうれしく思った。

屋外のステージで用意されたメニューが次々と出されていく。時に歓声があがる。

会場内をクリーンな状態に維持する為に配属されたシルバー会員の皆さんのコメントによると、江田島高校の生徒がゴミ袋を持ってマメに場内を巡回するのでゴミが少いとの事だ。思わず感傷的になる。関係者の気持が伝わってくる。

広島県警音楽隊は、何時見てもいい。演奏、ユニホーム、動作もキビキビと良く訓練されている。

江田島郵便局のマスコットは子ども達の大人気だ。この種の催物には必須なのだ。

全会場にどれ位の人が足を運んだのだろうか。出来るだけ多くの人が来る事を願うのは主催者は勿論、一コーナーで携わった自分達もです。

（M・K記）

（7頁より続く）

小学校運動場に設けられた創作体験コーナーでは、はじめは尻ごみしていた子どもが、会員にうながされて、竹トンボ、竹笛作りに挑戦して、結果に満足して帰る親子を見るにつけ自己満足したことです。

コーナーの一画で作って売っている綿菓子は、西野、樽本、八木さんの呼び込みの成果か、昨年より一袋よけいに売れた。途中で材料を買いに走った様子、嬉しい悲鳴が出たとのことです。

反省事項として、展示品の多様化と創作品のオリジナル化、それに会員さんがもう少し参加してくれることです。

他のコーナーを回って痛切に感じた事を一つ、子どもは一年経って飛躍的に成長するのを作品で見ました。同一のものを書いた絵です。一年生と二年生のそれです。

（M・K記）

保健婦さんからのアドバイス

高齢者の健康管理シリーズXII

心筋梗塞

＝何より早めの治療を＝

救急車のサイレンの音の高さは、ドレミファで言うとシーソー、シーソーだそうです。遠くで、かすかにサイレンが聞こえ始め、次第にその音が大きくなり、近所でスーッと消えると、どこだろう、だれだろうと大変心配をします。

七年前に糖尿病を指摘されたにもかかわらず、コントロールが不十分であった六十六歳の女性。午前六時ごろ朝食の用意をしているとき、突然、前胸部に締め付けられるような激しい痛みを覚え、冷や汗があり、痛みが持続するため、かかりつけの医師に相談して、ただちに救急車で搬送されました。

心電図をとると、急性心筋梗塞で、直ちに心臓集中治療室へ収容されました。

心臓を養っている血管を冠状動脈と呼びますが、この動脈には大きな枝が三本あります。この中のどれかが詰まって、血液の流れが途絶えてしまうと、その先の筋肉が死んでしまいます。これが心筋梗塞で発症は、年をとるほど増加します。

脈が不安定になったり、心臓が体中に十分な血液を送り出せなくなったり、血圧が急に下がって意識がもうろうとしたりして、時には生命にかかわる恐ろしい病気です。

従って、心筋梗塞には早めの治療が大切です。冷や汗を伴って、このまま死んでしまうのではないかというような強い不安感を伴った胸の痛みが二十分以上続いたら、心筋梗塞の疑いがあるので、なるべく早く救急車を呼ぶか、近くの医師の診察を受ける必要があります。

でも病気は治すより予防が第一。肥満、喫煙、ストレスを避け、定期的な健康診断を欠かさないことが大切です。

少なくとも糖尿病や高血圧のある人は、人一倍、心筋梗塞を起こしやすいので、根気よく治療を続けてください。